

令和2年7月実施 生徒による授業評価 まとめ

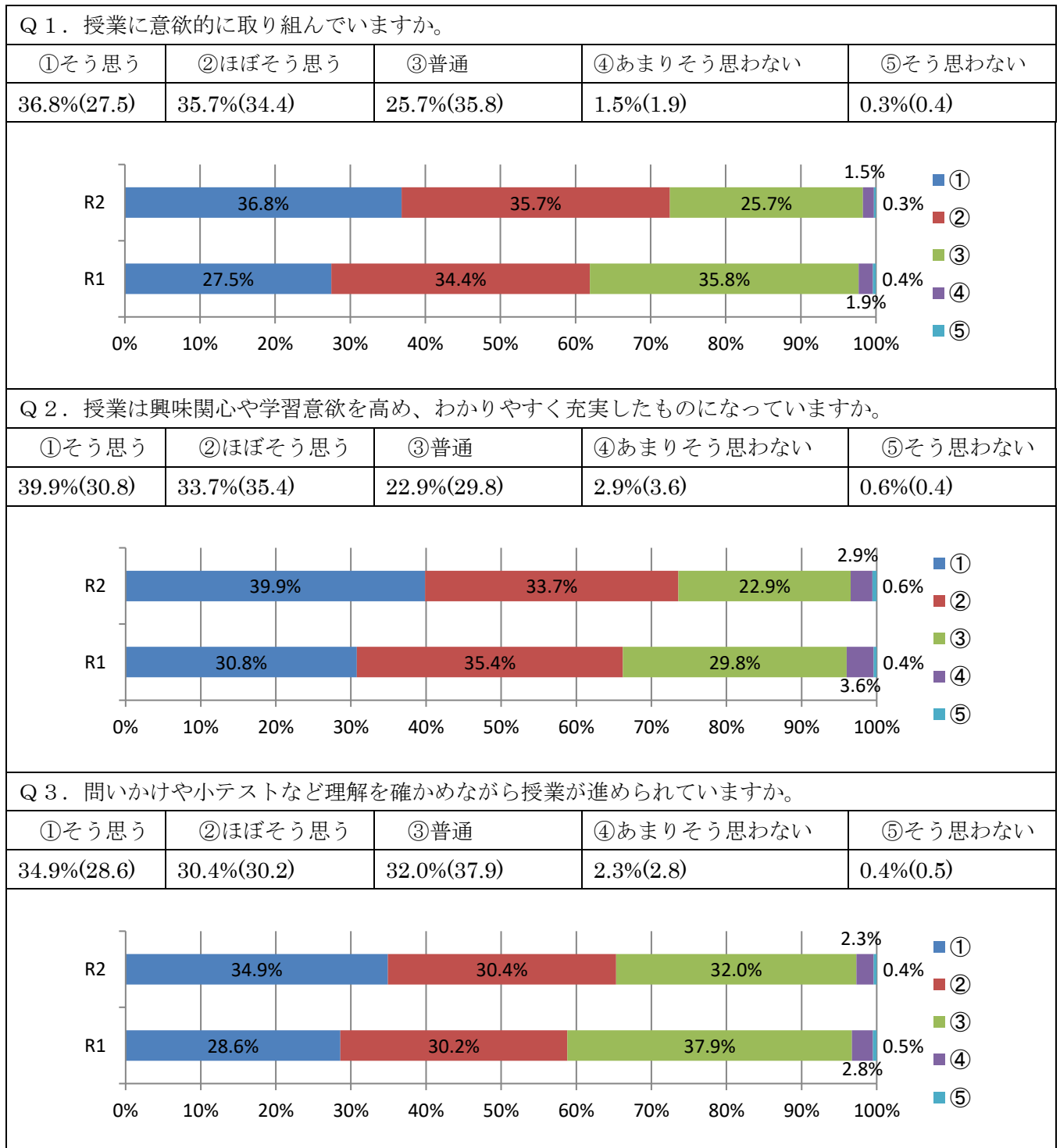
木曽青峰高等学校

本校では、毎年7月に全生徒に対し、全職員・全講座に関する「授業評価アンケート」を無記名で実施し授業改善に役立てています。今年度も座学用・実習を伴う科目用などのアンケート用紙を作成し実施しました。それぞれのアンケート用紙に6項目の調査項目と記述部分を設けました。

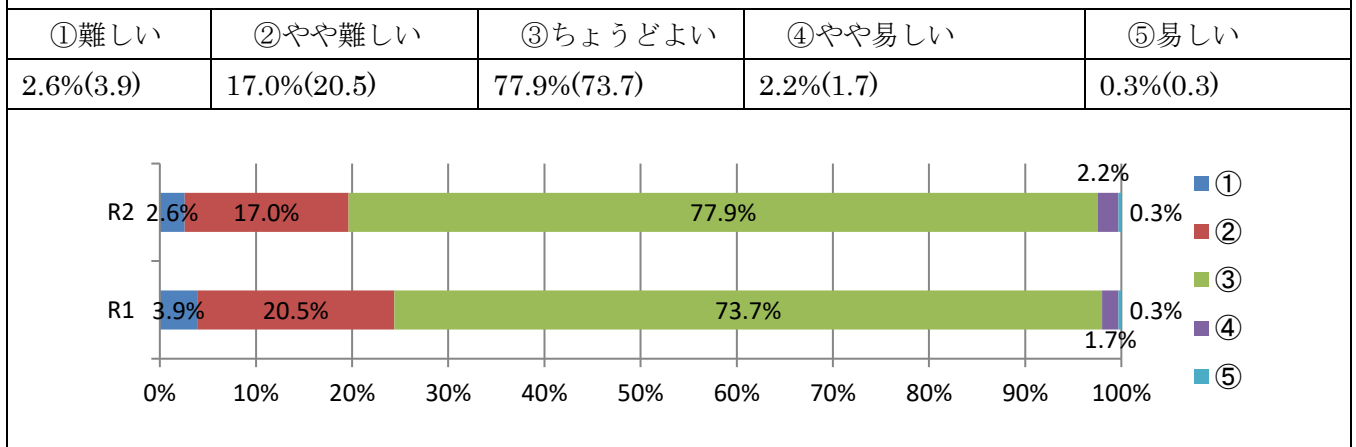
座学用アンケート項目6項目・実習を伴う科目用アンケート共通の3項目の全日制・定時制を合わせた結果は下記の通りです。

単位は全て%、カッコ内はR1年度

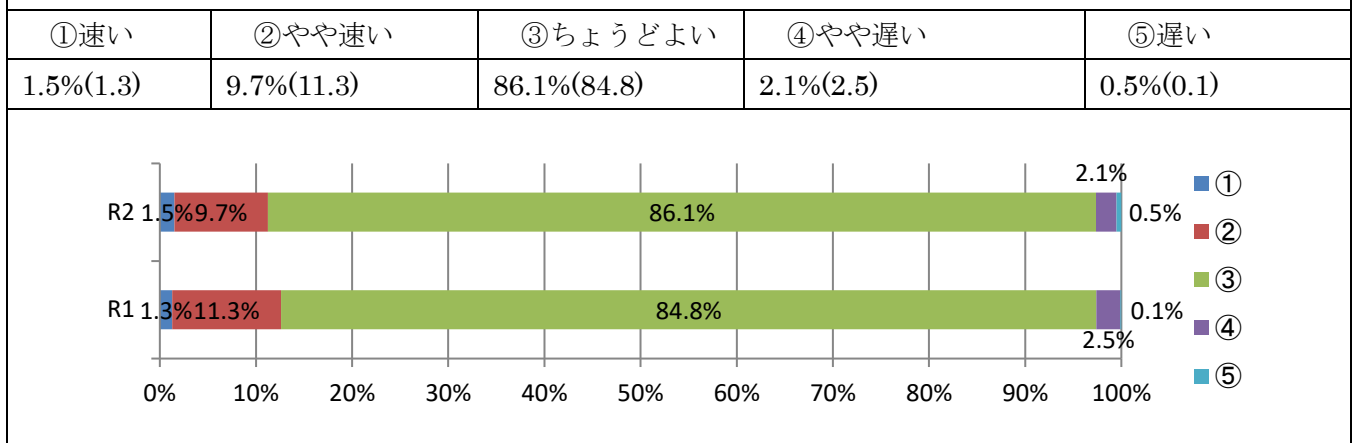
【座学中心の科目用授業アンケート結果】……3027件



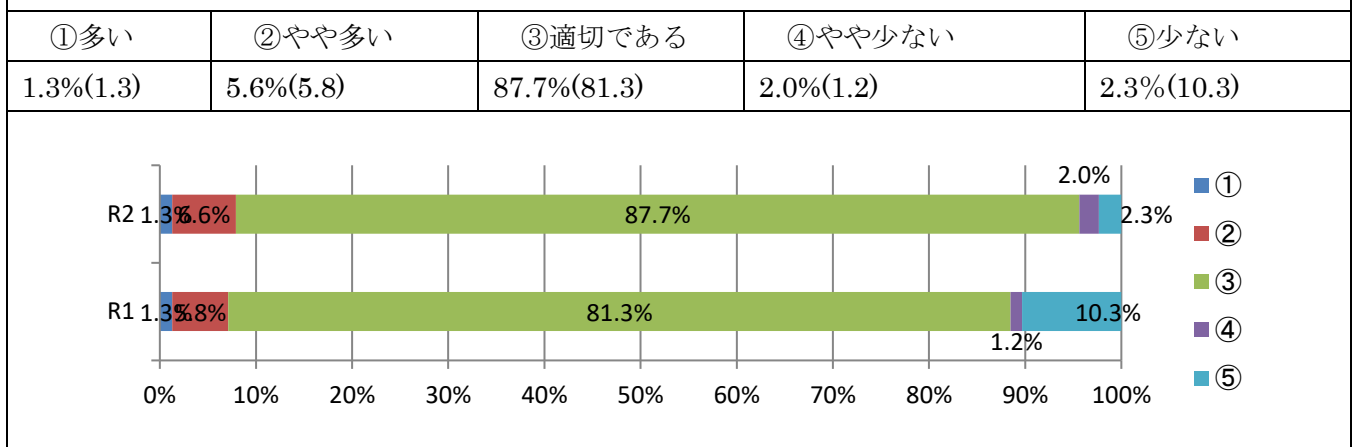
Q 4. 授業の難易度は適切ですか。



Q 5. 授業の進む速さは適切ですか。



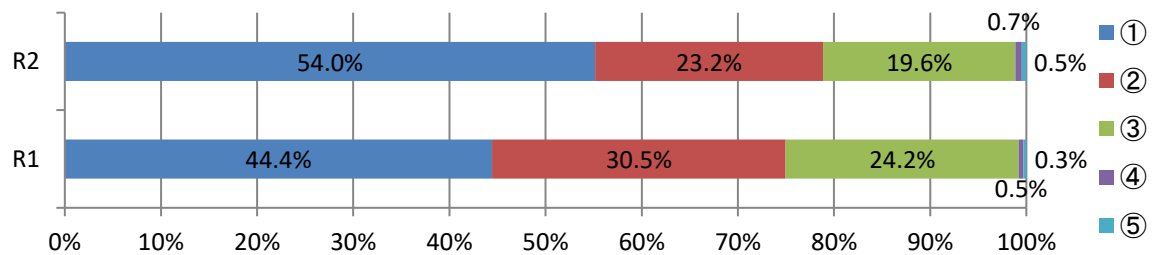
Q 6. 課題の量は適切ですか。



【実習中心の科目用授業アンケート結果】……1535 件

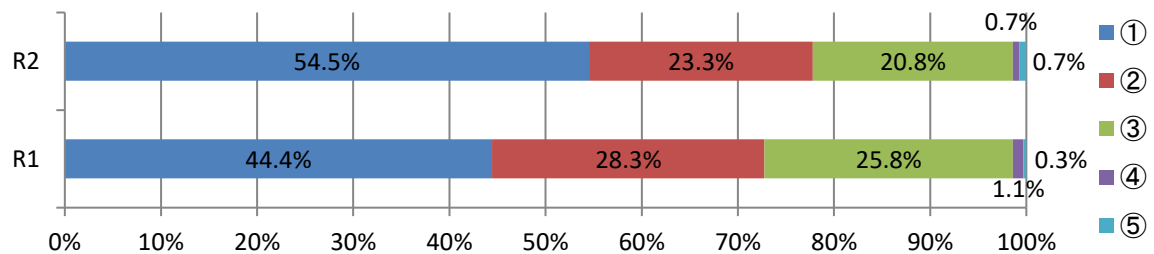
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
54.0%(44.4)	23.2%(30.5)	19.6%(24.2)	0.7%(0.5)	0.5%(0.3)



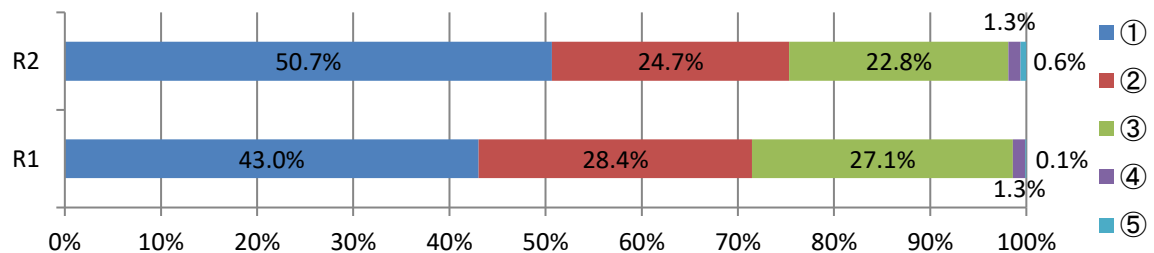
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
54.5%(44.4)	23.3%(28.3)	20.8%(25.8)	0.7%(1.1)	0.7%(0.7)



Q 3. 技術の習得など理解を確かめながら授業が進められていますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
50.7%(43.0)	24.7%(28.4)	22.8%(27.1)	1.3%(1.3)	0.6%(0.1)



●全日制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

教科	ま と め
国語	・Q1 取り組みについて、「そう思う」「ほぼそう思う」が全科で7割程度で毎向きに授業に取り組んでいると思われる。 ・Q2 興味関心については、7割強が肯定的な評価であったので、来年度以降も各担当が工夫しながらこの評価をすること目標としていく。ただし、普通科・理数科で「あまりそう思わない」が4%いるので内容改善の余地がある。 ・Q3 各担当がそれぞれドリル等を生徒の実態に合わせて実施しているの、今後も継続したい。 ・Q4 普通科・理数科で2割弱の生徒が「やや難しい」と感じているので教材の選定等には注意する必要があるが、休校の影響もあり例年と大幅に授業内容を変更したことが原因の1つとして考えられる。 ・今年度から試験的に普通科・理数科の古典の授業を習熟度別の講座に変更したが、現在のところ大きな問題もなく、一人一人の実態に合った授業が行えている。生徒にアンケート等を取るなどして来年度以降も継続していく余地がある。 ・Q5・6については適切だといえる。 ・今年度からアンケートが科ごとに分かれたので昨年と比較することは難しいが、来年度以降のデータが揃えば、さらに細かく比較検討することができる。
地歴・公民	・多くの生徒からは良い評価をうけている。 ・理数科・普通科に比べて、専門科の自己評価、授業評価は概ね良好である。 ・問いかけに対する生徒の反応は概ね良い。
数学	・授業の難易度でやや難しい、難しいが昨年と比較して増えている。また、進度に関してやや速い、速いに関しても同様に増えている。新型コロナウイルスによる休校の影響で授業が遅れていることが背景にあると考えられる。 ・全体的には多くの生徒より良い評価を受けている。
理科	・授業のあり方（目的・レベル）について生徒が理解して授業に臨んでいる。 ・内容が多いため、時間の都合上、丁寧に説明できていない。
保健体育	<体育> ・昨年度よりも「お互いに協力して活動できている」がなされていると感じる生徒が多く、主体的学びの影響もあり今後も継続し、さらに発展的な活動できる活動内容・場を考えていきたい。 ・「準備体操など安全への配慮がなされている」生徒の割合が高く、安全においても生徒は前向きに取り組んでいると思われる。 <保健> ・「意欲的に取り組んでいる」「興味関心や学習意欲を高める授業」と感じる生徒の割合が高い。生活に密着した内容を取り扱っていることや、担当者ごとに工夫しながらICTを活用したりグループワークを行ったりしているためと思われる。

芸術	・ Q 1 多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。授業の様子を見ていても、それを感じる。 ・ Q 5 ・ 6 「やや遅い」「やや少ない」と回答した生徒が数名はいるので、様子を見ていきたい。 ・ 自由記述欄には前向きな記述が多かったので、それに答えられるよう教材研究をしていきたい。
外国語	Q1Q2（参加意欲等）について ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」の問に対しては「そう思う」「ほぼそう思う」と答えた生徒は普通科・理数科で 76%、専門科で 74%であり、昨年より上昇している。（昨年度 67%）ほとんどの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。 ・「学習意欲を高め分かりやすく充実した授業になっているか」に対して、「そう思う」が普通科・理数科で 40%・専門科で 47%であり、昨年より上昇している。（昨年度 31%）習熟度別講座の少人数講座、ICT 利用等が効果をあげていると思われる。 Q3Q4（授業理解、小テストなど）について ・「問かけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められているか」の問いに対して「そう思う」「ほぼそう思う」が普通科・理数科で 76%、専門科で 65%と昨年より上昇している。（昨年度 64%）「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒は 1%であるが、授業の中の様々な場面でより丁寧な確認作業をしていくことが求められる。 ・授業の難易度について 28%（昨年度 25%）の生徒が「難しい」「やや難しい」と回答しているため、今後教材の選択の際には考慮していく必要があるだろう。 Q5Q6（進度・課題）について ・授業進度が「速い」「やや速い」と答えた生徒が普通科・理数科、専門科ともに 20% いるため、上位を伸ばしながらも下位に気を配っていきたい。 ・課題の量についてはほとんどの生徒が「適切である」と解答している。 全体を通して ・生徒の学力が変化しているため、よく生徒を観察し授業改善、教材の選択などを行っていければよい。
家庭	・ 授業への意欲、充実度については、7 割以上がそう思うと回答している。おおむねよく取り組んでいると考える。（Q1,2） ・ 進度、難易度については 9 割以上が丁度よいということである。今後も様子を見ながら進めたい。（Q3,4,5） ・課題、実習については休校中の分も含まれていると考えるがおおよそ 9 割以上が適切ということであった。（Q6）
森林環境	・ 昨年と比較し Q 1 ～ 4 において、「①そう思う」（充実している）の比率（%）が減少している。一方、「②ほぼそう思う」の割合が増加しており①を補完している側面もある。 ・ Q 1 ～ Q 4 において、「⑤そう思わない」と回答した生徒はいなかった。 ・ Q 5、Q 6 共に「③ちょうどよい」が 8 割以上を占めており、昨年に引き続き高い水準を維持している。

インテリア	・TypeA（専門科座学） Q1 生徒自らの授業への取り組みは自己肯定の数値となっている。 Q2 授業は興味関心や学習意欲を高め充実した内容になっているかについては、普通以上で概ね高くなっている。 Q3 問いかけや小テストなど理解を確かめながらの授業進行については、そう思う以上が 6 割弱、普通が 4 割強で問いかけに肯定的である。 Q4 授業の難易度は難しい方向に 10%シフトしているので生徒の要望を聞いてみたい。 Q5Q6 授業の進む速さ課題の量については、ほぼ適切と判断できる。 ・TypeD（専門科実習） Q1 生徒自らの授業への取り組みは普通を含めた数値がそう思うの方向にあり肯定的である。 Q2 授業は興味関心や学習意欲を高め充実した内容になっているかについては、昨年より、そう思うの方向へシフトしている。 Q3 技術の修得など理解を確かめながらの授業進行については、そう思うの方向へ 20 ポイントシフトしており普通以上の肯定的な意見として表れている。 Q4 授業中の安全確保については普通以上の肯定的意見が全てである。 Q5 授業の進む早さについてはちょうどよいが 9 割以上だが、早いと感じている生徒については、安全面などを含め配慮したい。 Q6 実技の量についてはやや多いが 6 ポイント存在するので作品などの大きさ等確認し、改善をしていきたい。
-------	--

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

教科	ま と め
国語	・専門科を習熟度別の講座展開を考えても良いのかと思われる。（理由は、普通科・理数科に比較して学習意欲や学力の差があるので、習熟度にしたほうが意欲や学力の高い生徒には教材にプラス α して授業ができ、低い生徒にはレベルに合わせた個別指導等がしやすくなると考えられるからである。） ・今後コロナのような感染症に伴う休校や自然災害に伴う休校時の授業のあり方。（オンライン授業を行う為の教材作り等が検討課題としてあげられる。）
地歴・公民	・昨年に引き続き、全体の 20%程度が難しいと感じている。課題等を行うことによってこの問題を解決するための取り組みを行っていききたい。 ・電子黒板が見えづらいとの指摘有。採光に注意が必要か。
数学	・習熟度別の授業を行っているが、上位層では物足りないと感じている生徒もあり、自由記述欄に記載をする生徒も多く見られた。幅広い層の生徒への対応の検討が必要である。 ・電子黒板の文字が小さいという指摘があった。適切な文字のサイズを検討したい。
理科	・確認テストは好評。グループワーク、テスト持ち込み可など効果的なものは継続して取り組んでいく。 ・ICT を積極的に活用していく。

保健体育	<体育> ・「実技の量がやや少ない」と感じる生徒の割合もあるので、講座ごとに生徒の実態に即した運動量を検討していきたい。 <保健> ・生徒の意欲に対して応えられるような授業内容の充実を図りたい。 ・今後もＩＣＴを活用したりグループワークを行ったりし、理解を深めていきたい。
芸術	・これまでと同様、知識、技術の定着を確認する場を設定していきたい。 ・個別の能力に応じた教材、指導をしていきたい。
外国語	・ほとんどの講座を習熟度授業で行っているが、同じ講座でも理解度に差が出ているため、補習での対応も含め、上位を伸ばし、下位を底上げする工夫が一層必要である。
家庭	・教室の機器が充実しているので活用できるように工夫したい。 ・より充実した内容になるように展開を工夫したい。
森林環境	・Ｑ１Ｑ２で問われている生徒の学習意欲的や興味関心に関わるポイントの向上を図るため、教材の提示方法や説明の見直し、問い掛けや課題設定の工夫など授業の改善に取り組む。 ・実習における安全教育については引き続き重視していく。

●定時制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

１ 分析した内容（教科毎の集計、自由記述から等）

T y p e A 座学において ・Ｑ１、Ｑ２、Ｑ３については①そう思う、②ほぼそう思う、が６割前後で概ね各学年共に授業に意欲的に取り組み、理解や充実感が高まっている。 ・Ｑ４の難易度に対しては③ちょうどよい、が７割を超えている一方、①難しい、②やや難しい、が２割を超えているが、学力に幅があるため、どのレベルに合わせるかによって回答の割合も変わる質問であり、ただ生徒に合わせるだけでなく、意欲的に取り組んでいるからこそ、多少負荷をかけて力を付けさせることも時に必要であると考えます。 ・Ｑ５、Ｑ６についてもＱ４と同様のことがいえるので、適切であると考えます。 T y p e B 実習教科において ・Ｑ１、Ｑ２、Ｑ３について①そう思う、②ほぼそう思う、が６割以上で座学の授業と同様の結果である。 ・Ｑ４、Ｑ５、Ｑ６についても座学と同様のことがいえる。

２ 今後の授業で改善したほうがよい点等

・授業の難易度に関しては、意欲的に取り組んでいる生徒が多いので難度を上げていくことも必要であるが、丁寧な指導と共に、理解の確認を怠ることなく進めていく。また、適切な評価を行い、生徒が達成感や、充実感を得られるように指導することが必要と思われる。 ・実技についても同様に、適切な評価をしながら生徒の学修に対するモチベーションを高めるように努めていく。

【まとめ】

『このアンケートを通じて、生徒は自らの授業に対する姿勢を確認し、教員は自身の授業がどのように受け止められているかを客観的に把握し改善に役立てています。今後も「授業の大切さ・重要性」を教員生徒が互いに再確認し、より一層充実した授業になるよう努力していきます。』